

Suma Tomogaoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部
令和5年度 第1号 5/24

“ 雑 感 ”

校長 大久保 隆

1学期が始まり早くも1か月がたちました。4月にあった1年生オリエンテーション合宿や2・3年生の校外学習、須磨東高校との定期戦や大型連休も終わり、1学期中間考査を迎えて、学校生活も学習中心になってきました。(6月には友高祭を控えています) 須磨友が丘高校に着任して以来、私にとって4月はあつという間に過ぎた感があります。その4月に印象に残ったことを書いてみようと思います。

私は、西宮市の自宅から自動車で阪神高速道路北神戸線を利用して、毎日友高まで通っています。北神戸線は六甲山地の北側を走っており、山に囲まれています。4月は友高に来るとき、新緑が朝日に映える中、赤紫色の野生のコバノミツバツツジが彩りを添えて、美しい風景を作っていました。しかし、4月下旬に何気なく山肌を見ながら車を走らせていると、いつの間にかコバノミツバツツジの花はすっかりなくなり、木々の緑がより濃くなっていることに気づきました。始業式の式辞で、「社会の動きや自然の移ろいに関心を持ってください。」と言いながら、自分も「自然の移ろいへの気づきがおそいなあ。」と反省した次第です。

4月25日(火) 須磨東高校との間で、第3回定期戦が行われました。10の競技で熱戦が繰り広げられ、友高は惜しくも4勝6敗の成績で優勝は逃しましたが、敗れた競技は接戦が多く、非常に良い定期戦であったと思います。特に私が感動したのは、生徒の皆さんの自校チームへの応援でした。私が観戦した中では、バレーボールやバドミントン、バスケットボールで友高が得点した時の拍手や声援、サッカーで須磨東高校のペナルティキックを見事にセーブした時の大声援など、率直に須磨東高校をしのぐ応援であったと感じました。それは、やはり自らが通う友高へのプライドと愛校心の証しであると思います。この自らが通う学校への自負心や愛校心は非常に大切です。やはりこの気持ちを持ち続けなければ有意義な学校生活は送れません。これからもぜひこの気持ちを持ち続けながら学校生活を送ってください。

最後になりましたが、ご家庭並びに地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なるご理解とご協力をいただいておりますことを、改めて深く感謝申し上げます。今年度も引き続きご指導とご鞭撻をくださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

離任・着任された先生方 先生方の新たな環境での活躍をお祈り申し上げます！



お世話になりました！

転出・退職 (敬称略)

転出・退職 (敬称略)	
校長	川崎 芳徳 (県立芦屋国際中等教育学校)
事務長	柴田真理子 (県立図書館)
数 学	米田 年宏 (県立夢野台高校)
英 語	西谷 昭美 (県立兵庫高校)
国 語	磯貝 祥史 (県立星陵高校)
地歴・公民	三木 梓 (県立兵庫高校)
国 語	萩原 康平 (県立佐用高校)
英 語	矢倉 淳子 (ご退職)

よろしくお祈りします！

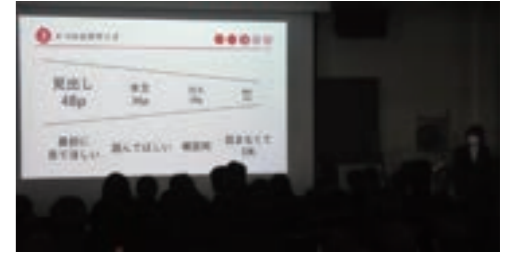
転入 (敬称略)

転入 (敬称略)	
校長	大久保 隆 (県立篠山産業高校)
事務長	吉田 朗子 (県立夢野台高校)
国 語	高橋 秀和 (県立星陵高校)
英 語	石田加奈子 (県立兵庫高校)
数 学	森田 慎也 (県立西宮南高校)
地歴・公民	折野紘一郎 (県立高砂高校)
英 語	皆吉 真樹 (新採用)
国 語	伊藤 扶桑 (新採用)
地歴・公民	平田 竜馬 (新採用)
英 語	辻本 章男

3年次「課題研究Ⅱ」PowerPoint で効果的なスライドを作る

4月17日(月)の6限目、3年次の「課題研究Ⅱ(総合的な探究の時間)」に神戸芸術工科大学大学院芸術学研究科博士課程1年生の大嶋優希子さんを講師としてお招きし、「伝わりやすいプレゼンテーションスライドの作り方」を教わりました。見やすく、分かりやすい具体例を盛り込んだ講演でポイントを記録しながら聴くことができました。

1学期は2年次課題研究Ⅰの取り組みや論文を各自がプレゼンテーションにて発表することなので、この学びを生かして発表の準備に取り掛かりたいと思います。



2年次「課題研究Ⅰ」全体講演会報告

4月13日(水)の3限目、2年次の「課題研究Ⅰ(総合的な探究の時間)」の時間に、甲南大学フロンティアサイエンス学部より甲元一也先生を講師としてお招きし、体育館において「課題研究(探究活動)が拓く未来」をテーマに全体講演会を実施しました。

生徒は系列ごとにグループに分かれ、与えられた課題に対して系列ごとの立場からの意見を話し合い、全体の前で発表しました。このグループワークを通して、生徒は立場が変わればものの見方・考え方が変わる“多角的なものの見方”への

足掛かりを掴めたのではないかと思います。

「解決され得ないような社会の課題を、本気で取り組みれば高校生でも解決出来る」との甲元先生のお話により、生徒たちが勇気を頂いたところで講演が終わりました。

課題研究の意義や課題の設定のヒント、課題解決に向けた視点の持ち方などを、実践的なグループワークを通して解りやすくお話頂いたので、この学びを存分に生かして、課題研究を進めて行ってもらいたいと思います。



1年次「産業社会と人間」職業人講演会報告

4月28日(金)の5・6時間目、1年生の「産業社会と人間」の時間に、「職業人の方に仕事の話を知ろう！」と題して、9名の講師の方をお招きし、お話を伺いました。様々な方面で活躍されている講師の皆さんの現在のお仕事の様子やご苦労、また、現在に至るまでの経緯等貴重なお話を伺うことができ、生徒たちの「仕事をする」という事に対する考えが深まる良い機会となりました。今回のお話から感じたことを1学期後半にある職業研究につなげていきたいと思っています。

講師の先生方のご職業

宮大工 / テレビ局営業 / 鍼灸院 / ヨガ講師 / こめ農園経営 / 海苔漁師 / 助産師 / IT・Web デザイナー / 管理栄養士



1年次「産業社会と人間」ハテナソソワークショップ

5月12日(金)、1年次の「産業社会と人間」の授業では、京都産業大学より佐藤賢一先生をお招きし、「自ら問いを立てる学び方を実践し、対話するハテナソソ授業」と題したワークショップを行いました。生徒たちは、「問い」に対してさらに問い返すワークや、テーマに沿ってできるだけたくさん「問い」を出していくワークを通して、問うことをじっくり体験することができました。

普段の授業とは異なる取り組みに戸惑いながらも、自ら問うことによって考えが深まったり、みんなで取り組むことで視野が広がったりすることにも気づいたようです。今後さまざまな活動にも活用することが期待されます。

<生徒の感想より>

- ・「質問だけを述べる」という話し合いを今までにしたことがなかった。否定されることがないこの話し合いは、今までで一番気持ちよく行われた話し合いだったと思う。
- ・問を考えるうえで、疑問に対し一つの解答や正しい解答だけを探すのではなく、なぜこの解答に至ったのかや、根本的な理由、背景や意図に目を向けることを大切にしたいと思う。

